

★ スペイン大使館にて展覧会 "HAPPY BIRTHDAY EARTH '06" (会期：2006年9月8日～14日)

スペイン大使館のモダンな空間に、世界中の子どもたちのビビッドで純真なアートの展覧会を行いました。アジア、ヨーロッパなど世界各国から寄せられた約80点の絵画を壁一面に展示。絵画だけでなくキッズ・アース・カーが出会った日本の子どもたちにより彩られたチェアやハウスといった立体作品も展示しました。前日のオープニングレセプションには、約250名のゲストがお越しください、スペイン人ギタリストによる演奏をお楽しみいただくなど、ラテンなムード一杯のチャリティスペインナイトとなりました。チャリティラッフルも行われ、皆様のご参加費、ラッフル売上など収益金504,895円は、子供地球基金の活動を通して子どもたちの支援に使わせて頂きます。

ご協賛：バカラ パシフィック㈱/ コールマン ジャパン㈱/
フォーシーズンズホテル丸の内 東京 / 藤ゲラン /
ランパン ジャパン㈱/ 株式会社ウエムラ化粧品
(以上ラッフル商品ご提供) ヴィレッジ セラース㈱/
㈱チキータ・ユニフルティー・ジャパン / VIDA inc.

ご協力：ジャニカ・サウスウィック・シムズ様 (MC)
ホルヘ・ディアス・バンド (スペイン音楽演奏)
村上 朋子 様 / 杉山 敦子 様 (アートディレクター)

特別協力：スペイン大使館 Embassy of Spain

主 催：子供地球基金 KIDS EARTH FUND (順不同)



★ 今年のクリスマスカードができました！

第1号キッズ・アース・ホーム (クローアチア) の子どもたちの描いた絵が、クリスマスカードのデザインになるこのプロジェクトも、今年で4回目となります。スマイルハートクラブ*のご協力のもと、今年もいよいよクリスマスカードの販売が開始となりました。カードの売り上げは、旧ユーゴスラビアの子どもたちに加え、今年はバクスタン大地震の被災地の子どもたちの支援活動に使われる予定です。(*三井住友海上グループ社員による社会貢献活動団体)



張り切ってデザインの絵を描いた子どもたち



個性あふれるたくさんの作品ができました

★ N.Y. のアーティストと子どもたちの出会い 協力：シュウ ウエムラ化粧品

シュウ ウエムラは、クレンジング オイル リミテッド エディション 2006 "shu project by j.t." の売上の一部を、子供地球基金へのチャリティとして寄付していただきます。6月17日、そのリミテッド エディション ボトル 作品を手がけたNY在住アーティスト・ジョントレンブレイ氏がキッズ・アース・ギャラリーを訪れました。子どもたちと一緒に、オプティカルアートに挑戦するためです。ジョンが子どもたちに提案したのは「ポテトスタンプ」。じゃがいもの切り口を使ってできあがった作品に、ジョンも子どもたち大満足の様子でした。

クレンジング オイル リミテッド エディション 2006 は、9月8日より全国のシュウ ウエムラで限定発売中です。



「ジョンはとても優しい！」と子どもたち



この日の作品はシュウ ウエムラが行う展覧会で展示予定です



馬
スティーブン・ウィジャヤ・ハリム
インドネシア

©子供地球基金 / KIDS EARTH FUND

特集

津波被災 1 年後のスリランカ支援

6月17日から23日まで、事務局高橋、村井の2名が昨年のインド洋大津波の被災地スリランカ南部ハンバントタ県を訪れ、子どもたちとワークショップを行ってきました。このワークショップは、スマイルハートクラブ*のご協力のもと、特定非営利活動法人ジェン（JEN）との協働で実現しました。
*三井住友海上グループ社員による社会貢献活動団体

【津波発生から現在まで】

2004年12月、スマトラ島沖地震とその後の大津波の発生により、多くの方々が被害を受けました。今回訪れたハンバントタ県は、特に被害の大きかった地域のひとつです。家や家財道具を津波に飲み込まれ、家族を亡くし、漁師を仕事としていたハンバントタ県の大人たちは生計手段を失いました。復旧作業は進んでいるものの、一年以上経った現在でもまだあちこちに壊れた家やなぎ倒された木々が見られ、津波の威力の大きさを思い知らされます。大切な人、ものを失った人々の精神的ダメージは計り知れません。被災した子どもたちがその心の傷を少しでも癒すことができるよう、14の村から集まった157名の子どもたちとのアートワークショップを、5回に分けて開催しました。



【みんなからの励ましのメッセージ】

津波発生後、被災者を励ますために、日本とクロアチアの子子どもたちがアートを製作。日本の子子どもたちは色とりどりの紐でプレスレットのお守りを作り、1つは自分が身に付け、もう1つは被災地の子どもたちへ届けるためにつなげていき、長い一本のフレンズ・チェーンが出来上がりました。クロアチアの第1号キッズ・アース・ホームの子子どもたちは、大きなキャンバスに元気一杯、絵を描いてくれました。絵の中には“friend”“love”などの言葉のメッセージも。スリランカの子子どもたちは、それぞれお気に入りの色のフレンズ・チェーンを腕に巻き、両国の子子どもたちの想いを受け取りました。



【学校に展示しよう！子どもたちの復興への思い】

2月に行ったベトナムの子子どもたち、6月に行ったクロアチアの子子どもたちからバトンタッチされ、スリランカの子子どもたちも“友だちってどんな顔？”プロジェクトを引き継ぎました。モデルとなる子子どもたちがキャンバスに寝転がってポーズをとり、その姿を他のお友だちが型どった後、絵の具でペイントしていく方法はこれまでと同じ。1つだけ違うことは、モデルのみんながキャンバス上で手をつないでいること。津波で失ったものはあるけれど、みんなの友情は消えることなく、これからも助け合っていこう、というメッセージが込められています。背景には、孔雀やゾウなどの動物や魚、カラフルな花など、スリランカの子子どもたちにとってはとても身近なものの絵で埋め尽くされ、スリランカらしさあふれる作品となりました。出来上がった5つ全ての作品は、家族や他の子子どもたちにも見てもらえるように、参加した子子どもたちが通うそれぞれの学校に展示しました。



【私、僕の絵がポストカードに！】

花、庭や自然、フルーツ、友だち、動物、スポーツ、お祭り、の中から好きなテーマを選び、1人1枚のキャンバスに描きました。豊かな自然に囲まれた環境で暮らしている子子どもたち。描く絵も、きれいな色彩のお花や庭の絵が多くなりました。いくつかの絵をポストカードのデザインに採用、その収益金は世界の子子どもたちのために活用されます。励ましのメッセージをもらう立場だったスリランカの子子どもたちが、今度は他の国の子子どもたちを応援します。また1つ、Kids Helping Kidsの輪が広がりました。



〈参加した子どもたちの感想〉

・絵を描けて楽しかったし、良い作品ができたと思います。

・グループワークなどを通じて、今までよりも強く団結することができたと思います。

・外国の子子どもと交流できて、とても嬉しかったです。

・（クロアチアや日本の子子どもたちへ）何かつらいことがあっても、1人じゃないことを忘れないで。困っている時はいつでも側にいるよ、フレンズ・チェーンでつながっているから。

・日本からメッセージを持ってきてもらったので、今度は私たちのメッセージを届けてください。

・これからも交流を続けたい。

これらの感想はほんの一部ですが、多くの子どもが他の人を思いやり、温かいメッセージをくれました。体は小さい子どもたちですが、このような発言をする姿はとて大きく見えました。

【日本の木琴がスリランカへ】

今回のスリランカ渡航にあたり、(株)ボーネルンドから木琴10台のご協賛をいただきました。それらは2台ずつ、5校の学校に寄贈させていただきました。子どもたちはもちろん、先生たちも実際に木琴を見るのは初めて。いくつかの器に水を入れて音階をつくる、似たようなつくりをした楽器はスリランカにもあるそうです。「これから音楽の授業に木琴を取り入れていきます」と、先生もとても嬉しそうにおっしゃっていました。今頃、スリランカで、日本の木琴の音色が響いていることでしょう。



KIDS EARTH CAR Project キッズ・アース・カープロジェクト

キッズ・アース W 杯日本 VS クロアチア

今年、世界中が注目したサッカー・ワールド・カップ（以下W杯）にちなみ、日本とクロアチアの子子どもたちが“サッカー”をテーマに、アートを通じて交流を深めました。

“Soccer Art Match”

一つのキャンバスに、両国の子子どもたちがそれぞれの国の選手を描き込みサッカー対戦する合作絵画。“Soccer Art Match”と名付けたこのプロジェクト。参加してくれたのは、日本代表は、児童養護施設至誠学園の子子どもたち、対するクロアチア代表は第1号キッズ・アース・ホームの子子どもたちでした。大きなキャンバスをフィールドに、子どもたちがモデルとなって等身大の選手を描きます。至誠学園の子子どもたちは、先に描かれたクロアチアの子の身体の大きさにびっくりしながらも、負けにくい力強い選手を描きました。この“Soccer Art Match”の勝敗も、実際の試合のように、どちらも引けを取らないものとなりました。今回のような異なる国の子子どもたちによる合作絵画は、互いの絵を尊重しながら描かなければ、素敵な仕上がりにはなりません。日本の子子どもたちは、先に描いたクロアチアの子を思いやり、見事な作品に仕上がりました。



展覧会



「横浜市民ギャラリーあざみ野」
〈アートフォーラムあざみ野〉



“ユニフォーム交換”

サッカー選手は、試合後に相手選手とユニフォームを交換します。子どもたちも選手さながら、自ら描いたオリジナルのユニフォームを交換しました。ユニフォームは、無地のTシャツから絵の具でペイントして作ります。胸のマークには子どもたちの個性がきらり。動物や食べ物、サッカーボールとも地球とも見えるマークなど、様々な思いを込めて描きました。

日本代表：社会福祉法人 愛の家ファミリーホームの子子どもたち、日本医科大学附属病院の子子どもたち

クロアチア代表：第1号キッズ・アース・ホームの子子どもたち

W杯イヤーの今年、クロアチアと日本の架け橋として、子供地球基金は両国の子子どもたちの交流をますます深めてゆきたいと思います。

ご協力：ゴールドマン・サックス証券株式会社
ターナー色彩㈱



NEW MEMBERS

新規にご入会いただいた方々です

(個人会員)

アメール・メイベン 様 /
大橋 俊二 様 / 笠井 美智子 様 /
清原 雅子 様 / 近藤 明子 様 /
近藤 和子 様 / 篠原 玲子 様 /
鈴木 京子 様 / 曾谷 いず穂 様 /
中江 博子 様 / 松尾 博 様

(団体会員)

株式会社プリンセスハウス

(ビッグファミリー会員)

大橋 俊二 様 / 清原 雅子 様 /
篠原 玲子 様 / 鈴木 京子 様 /
中澤 妥伊子 様 / 他1名

(2006年6月1日～8月31日現在・五十音順)

